

図画工作科 学習指導案

I 題材 つんで けずって (造形遊び)

II 考察

1 題材観

(1) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(1) 材料や場所などを基に造形遊びをする。

(2) 培われる主な資質・能力

- ・身近な自然物や人工の材料の形や色などに関心を持ち、思いのままに造形的な活動に取り組もうとする態度
- ・身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に、造形的な活動を思い付いたり、考えたりする力
- ・手や体全体を働かせながら材料や用具を使い、並べ方、つなぎ方、積み方などを工夫する力
- ・感じたことを話したり、聞いたりしながら、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付く力

(3) 題材の価値

本題材は、友達と関わりながら、大量の粘土を体全体を使って削ったり付け加えたりして、自分なりに思い付いた形をつくる学習である。その価値は以下のとおりである。

粘土は、触り心地がよく、可塑性が高いため、2年生の子どもたちにとって、感触や用具を用いて削る感覚を楽しみながら、自由に思い付いた形をつくることのできる素材である。本題材では、たこ糸や針金などの簡単な用具を粘土を削るための用具として設定するとともに、粘土の固さを、子どもたちがこれらの用具を用いて削り易い固さに調節した。このことは、削った切り口の鮮やかさを感じたり、用具の用い方を工夫して削ることを楽しんだりしながら、新たな表現方法を広げる上で有効である。

まず、削り易い固さに調節した可塑性の高い粘土で思い付いた形をつくることは、粘土の重さや冷たさ、削る感触などを感じながら、自由に形をつくることのできるため、思いのままに造形的な活動を楽しむことができる。

また、粘土の置き場を中央に配置し、1つ1つの粘土を5kgから10kgの塊とした。このことは、友達と協力しながら運んだり、つくったりすることが促され、感じたことや考えたことを自然に友達に話したり、互いの活動を見合ったりしながら、自分なりの造形的な活動を思い付くことができる。

そして、大量の粘土でつくられたものの中に入り込み、つくられたものを鑑賞することで、粘土の塊の量感や自らの行為の跡を感じることができる。そのため、題材を通して活動したことそのものを振り返ることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「切って けずって」での、両刃のこぎりを適切に扱って様々な木片をつくり、その木片の形を生かして並べたり、接着したりしながら、自分のつくりたいものをつくる学習へ

と発展していく。

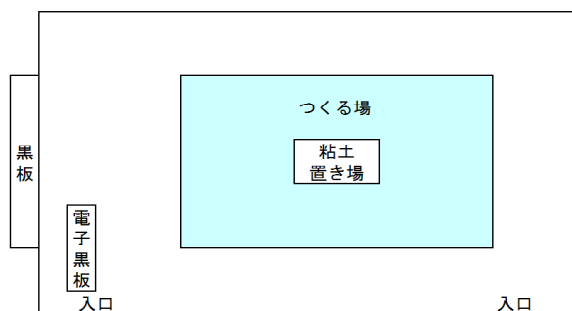
(5) 共通事項との関連 ※指導と評価の計画参照

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「ねんどでつくろう」において、粘土の変形や接合の仕方を試し、粘土でつくれそうなものを考え、立体に表す学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ・粘土の感触を楽しんで丸めたりのぼしたりして遊びながら、思いのままにつくる活動に取り組むことができた。このような子どもたちが、体全体を使って、粘土の重さや冷たさ、削る感触や握る感触などを感じたり楽しんだりしながら、自由に形をつくることができるよう、たこ糸や針金で一度に大きく削り易く、べたべたと手に付きにくい固さに調節した粘土で、自分なりに思い付いた形をつくる活動を設定する。

- ・粘土の形を変えて他のものに見立てたり、つくったものを手で動かして遊んだりしながら、自分のつくりたいものを思い付くことができた。このような子どもたちが、思い付いた形をつくりながら感じたことや考えたことを友達と話して、新たに自分のつくりたいものや、次の造形的な活動を思い付くことができるよう、粘土を取りに行く度に自然と子どもたちが集まることのできる粘土の置き場を中央に配置したつくる場を設定する。



＜粘土の置き場を中央に配置したつくる場＞

- ・ちぎったり、丸めたり、伸ばしたり、くっつけたりしながら、思いのままに様々な形をつくることができた。このような子どもたちが、体全体を使って粘土を積んだり並べたり、手や用具の使い方を工夫して削ったり付け加えたりしてつくることができるよう、粘土を5 kgから10 kgの塊にして大量に用意し学習材として設定する。

- ・自分や友達の作品を見たり、友達の作品とつなげたりしながら、作品を楽しんで見る事ができた。このような子どもたちが、自分や友達のつくったものを見合ったり、自分の思い付いた造形的な活動を振り返ったりして、形や表し方の面白さを感じ取ることができるよう、つくる場を白い壁で囲み、視覚情報を限定した鑑賞する場を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 粘土の感触を体全体で味わいながら、造形的な活動を思い付き、積んだり削ったり、付け加えたりして自分なりにつくりたいものをつくる。
- 2 準備 5 kgから10 kgの塊にした粘土1000 kg たこ糸 針金 白シート 白ダンボール
タブレットPC 電子黒板

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
<p>1 本時の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針金でたくさん削れたよ。これから、もっと粘土を高く積んで、鉛筆みたいに尖らせてみたいな。 <p>2 粘土を積んだり、削ったり、加えたりしながら、思い付いたことを試し、好きな形をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと高く積んで背を高くつくってみよう。 ・粘土は重いから、友達と一緒に持ち上げよう。 ・針金をびんと張るとすっと切れて気持ちいいな。切り口もきれいだよ。 ・針金を曲げて使うと、深い穴を開けることができたぞ。友達のトンネルとつなげてみよう。 ・細く削りすぎて倒れちゃいそうだな。どうしたらよいか。友達の様子を見てこよう。 ・粘土の塊を根本に置いて支えよう。 ・粘土をひっかいて模様を描いている友達もいるな。 ・大きな粘土の塊が、たくさん削られてギザギザの山になっているよ。 ・僕よりも背の高い塔ができたぞ。とても気に入ったよ。 <p>3 友達と話しながら、自分の気に入った場所から全体を眺める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他にも山や道もあるよ。僕たちのつくった塔も目立っているよ。 	<p>○粘土を積んだり、削ったり、付け加えたりしながら、つくりたいものをつくる学習への見通しをもてるよう、前時の活動を記録した映像を紹介し、つくり方を問いかける。</p> <p>☆思い付いたことを直ちに形にして、自ら感じたことを振り返ることができるよう、思い付いたことをすぐに形にできる、一度に大きく削り易くて、形のつくり易い固さに調節した大量の粘土を学習材として設定する。</p> <p>☆思い付いた形をつくりながら感じたことや考えたことを友達と話して新たに自分のつくりたいものや次の活動を思い付くことができるよう、粘土を取りに行く度に自然と子どもたちが集まることのできる粘土の置き場を中央に配置したつくる場を設定する。</p> <p>○自分のつくりたいものや活動を振り返ることができるよう、つくりながら感じたり気付いたりしたことについて問いかける。</p> <p>○様々な粘土の加工の仕方を積極的に試すことができるよう、並べる、積む、削る、加える、穴を開けるなどの加工の仕方を自分なりに工夫している子どもを賞賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">粘土の加工の仕方を変えたり、用具の用い方を変えたりして形をつくっている。</p> <p style="text-align: center;">< 作品・行動・発言（3） ></p> </div> <p>○自分や友達のつくったものを見合ったり、自分の活動を振り返ったりすることができるよう、つくる場を、白い壁で囲み視覚情報を限定した鑑賞する場を設定する。</p>

指導と評価の計画（全2時間）

目標	粘土の感触を体全体で味わいながら、造形的な活動を思い付き、楽しむ。			
評価 規準	(1) 粘土の感触を体全体で楽しみながら、造形的な活動に取り組もうとしている。 (2) 粘土の感触や感じたことを基に、造形的な活動を思い付いている。 (3) 思い付いたことを試しながら、手や用具を用いてつくり方を工夫している。 (4) 自分が感じたことを友達と話したり、友達の話を聞いたりしながら、活動の楽しさや形の面白さを感じ取っている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）	評価項目＜評価方法（観点）＞
であ う ひろ げる ・あ らわ す ふり かえ る	2 （本 時 2 ／ 2）	<p>○粘土を積んだり、削ったり、付け加えたりしながら、思い付いたことを試し、好きな形をつくる。</p> <p>○友達と話しながら、自分の気に入った場所から全体を眺める。</p>	<p>○体全体を使って、粘土の感触や重さ、加工する際の抵抗感などを感じながら自由に形をつくることのできるよう、可塑性の高い粘土を大量に用意し、自分なりに思い付いた形をつくる活動を設定する。</p> <p>☆感じたことや考えたことを自然と話することができるよう、粘土の置き場を中央に配置したつくる場を設定する。</p> <p>☆思い付いたことを直ちに形にして、自ら感じたことを振り返ることができるよう、思い付いたことをすぐに形にできる、一度に大きく削り易くて、形のつくりやすい固さに調節した大量の粘土を学習材として設定する。</p> <p>○つくった粘土の形や自分なりの造形活動を振り返ることができるよう、つくる場を白い壁で囲み、視覚情報を限定した鑑賞する場を設定する。</p>	<p>◇友達と話しながら、粘土を積んだり、削ったり、付け加えたりすることを繰り返している。 ＜行動・発言（1）＞</p> <p>◇粘土に触れながら、思い付いたことを話したり、加工したりしている。 ＜行動・発言（2）＞</p> <p>◇粘土の加工の仕方を変えたり、用具の使い方を換えたりして形をつくっている。 ＜作品・行動・発言（3）＞</p> <p>◇自分や友達の気に入った場所から全体を眺めたり、つくったものを見合ったりして、自分なりの感想を友達に伝えている。 ＜作品・行動・発言（4）＞</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>つくる場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>鑑賞する場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>用具</p> </div> </div>				
共通事項	粘土の固さや重さ、加工する感触などを体全体で感じながら、自分のつくりたい形をイメージする。			